

港湾積込

基準データ

XMLデータ仕様解説書



第4.0版

(平成23年5月)

【港湾請負工事積算基準】

及び

【設計等業務他、その他の積算基準】

財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター

変更履歴

版番号	日付	内容	頁
2.0	H21.5	3-1 工事工種体系データ 2) データ項目 <No.12>管理費区分 ・最大バイト数の変更 1 バイト→2 バイト ・「11」鋼橋桁等（製作+輸送+架設等）の追加 ・「12」鋼橋桁等（製作+輸送）の追加 ・「13」鋼橋桁等（輸送+架設等）の追加 ・「14」鋼橋桁等（輸送）の追加 ・「15」鋼橋桁等（架設等）の追加 ・「20」共通仮設費、現場管理費のみ対象とする場合の追加	P.14
		<No.13>間接費区分 ・「53」防舷材、電気防食単独取り付け工事の追加	P.14
		<No.16> 架設工区分 ・「200」共通仮設費（率計上）を削除 ・「109」イメージアップ経費（積上げ分）を追加	P.15
		3-3 単価表データ 2) データ項目 (3) 変数ブロック <No.12~14>J 条件 ・最大バイト数の変更 Jx : 6 バイト→8 バイト Jy : 6 バイト→8 バイト Jz : 6 バイト→8 バイト	P.31
2.1	H21.7	1. 港湾請負工事積算基準データの内容について	
		3) 基準データの種類と構成 ・供用係数データの追加に伴う改訂	P.4
		4) 基準データの収録方法 ・供用係数データの追加に伴う改訂	P.5
		6) 変数定義について	P.10

版番号	日付	内容	頁
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 予約変数 [β0] (就業 8 時間の船員供用係数) の追加 7) 基準データの提供方法 ・ 供用係数データの追加に伴う改訂 	P.10
		3-2 細別情報データ <ul style="list-style-type: none"> 2) データ項目 <ul style="list-style-type: none"> (2) 条件構成ブロック <No.9>標準選択番号 ・ 条件入力の場合の「初期値」を削除 <No.11>標準値 ・ 条件選択の場合の「初期選択番号」を削除 	P.20
		3-3 単価表データ <ul style="list-style-type: none"> 3) データ項目 <ul style="list-style-type: none"> (4) 構成ブロック <No.6>管理費区分 ・ 「(工事工種体系 No.12 と同じ)」を追記 <No.18>単価補正值 ・ 内容の修正 (単価補正值の設定に修正) 	P.34
		3-1-1 供用係数データ <ul style="list-style-type: none"> ・ 供用係数データの追加に伴い、データ概要、データ項目の追加 	P.50
3.0	H22.7	3-3 単価表データ <ul style="list-style-type: none"> 2) データ項目 <ul style="list-style-type: none"> (2) 条件ブロック <No.7>及び<No.17> 有効条件にかかる解説を追記 <No.18> 標準値にかかる解説を追記 (5) 引継ブロック <No.8, 9> 引渡選択番号と引渡数値における変数の定義を追加 (項目表のデータ形式に変数を追加定義) 3-4 労務属性データ <ul style="list-style-type: none"> <No.8> 船員区分を追加定義 <p>*データ事例や積算基準書抜粋部 平成 22 年度港湾請負工事積算基準およびデータ内容に基づき改訂</p>	P.30 P.31 P.39 P.40

版番号	日付	内容	頁
4.0	H23.5	1. 港湾請負工事積算基準データの内容について	P.3
		2) 基準データの対象基準	
		・その他の積算基準に「計画・開発・調査等業務」他を追加	
		誤字修正	P.5
		誤記修正	P.6
		2. 基準データ仕様の共通事項	P.7
		1) コード体系	
		・その他の積算基準の識別子を追加	
		6) 変数定義について	P.10
		・予約変数[DUM]の定義を追加	
3-1 工事工種体系データ			
2) データ項目			
<No.12>管理費区分	P.15		
・「31」設計業務費、設計業務人件費の対象とする 場合の追加			
・「32」設計業務費、旅費人件費1の対象とする 場合の追加			
・「33」設計業務費、事務用品費の対象とする場合の追加			
・「34」分析試験費とする場合の追加			
・「35」解析・考察費とする場合の追加			
・「36」図工金額とする場合の追加			
・「43」設計業務費、設計業務人件費、事務用品費の 対象とする場合の追加			
・「44」設計業務費の対象とする場合の追加			
<No.13>間接費区分			
・「61」調査業務委託の追加			
・「67」設計等業務の追加			
・「75」測量・調査等業務の追加			
・「80」土質調査の追加	P.16		
・「81」磁気探査の追加			
・「82」潜水探査の追加			

版番号	日付	内容	頁
		<p data-bbox="549 327 772 358"><No.14>集計区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="616 378 946 409">・ 「20」 直接業務費の追加 <li data-bbox="616 430 946 461">・ 「21」 直接測量費の追加 <li data-bbox="616 481 946 512">・ 「22」 直接調査費の追加 <li data-bbox="616 533 946 564">・ 「23」 間接調査費の追加 <li data-bbox="616 584 1002 616">・ 「24」 解析等調査業務の追加 <p data-bbox="549 636 799 667"><No.16>架設工区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="616 687 1102 719">・ 「300」 直接経費（積上げ分）の追加 <li data-bbox="616 739 962 770">・ 「302」 基地関係費の追加 <li data-bbox="616 790 935 822">・ 「303」 機械損料の追加 <li data-bbox="616 842 991 873">・ 「304」 業務成果品費の追加 <li data-bbox="616 893 991 925">・ 「305」 光熱・電力料の追加 <li data-bbox="616 945 879 976">・ 「306」 水道の追加 <li data-bbox="616 996 1129 1028">・ 「307」 技術管理費（積上げ分）の追加 <li data-bbox="616 1048 991 1079">・ 「308」 成果品検定費の追加 <li data-bbox="616 1099 962 1131">・ 「309」 精度管理費の追加 <li data-bbox="616 1151 906 1182">・ 「310」 製図費の追加 <li data-bbox="616 1202 991 1234">・ 「312」 電算機使用料の追加 <li data-bbox="616 1254 962 1285">・ 「313」 特許使用料の追加 <li data-bbox="616 1305 879 1337">・ 「315」 旅費の追加 <li data-bbox="616 1357 1129 1388">・ 「319」 間接調査費（積上げ分）の追加 <li data-bbox="616 1408 962 1440">・ 「320」 施工管理費の追加 <li data-bbox="616 1460 1046 1491">・ 「321」 解析等調査業務費の追加 <li data-bbox="616 1512 962 1543">・ 「322」 分析試験費の追加 <li data-bbox="616 1563 991 1594">・ 「323」 解析・考察費の追加 <li data-bbox="616 1615 1075 1646">・ 「324」 その他（直接経費）の追加 <li data-bbox="616 1666 1102 1697">・ 「325」 その他（共通仮設費）の追加 <li data-bbox="616 1718 962 1749">・ 「326」 事務用品費の追加 <li data-bbox="616 1769 906 1800">・ 「328」 借地料の追加 <li data-bbox="616 1821 1075 1852">・ 「329」 その他（間接経費）の追加 <li data-bbox="616 1872 935 1904">・ 「330」 資料解析の追加 	P.17

版番号	日付	内容	頁
		<No.18>体系分類区分 ・「142」土質調査の追加 ・「143」磁気探査の追加 ・「144」潜水探査の追加 ・「145」設計等業務の追加 ・「146」測量・調査等業務の追加	P.18
		3－9 基準書編・章・項データ 2) データ項目 <No.3>業種 ・業種番号の追加	P.51
		3－10 施工単価一覧データ 2) データ項目 <No.3>業種 ・業種番号の追加	P.53

1. 港湾請負工事積算基準データの内容について.....	1
2. 基準データ仕様の共通事項.....	7
3. 基準データの内容.....	11
3-1 工事工種体系データ.....	11
3-2 細別情報データ.....	19
3-3 単価表データ.....	26
3-4 労務属性データ.....	43
3-5 材料分類データ.....	44
3-6 材料属性データ.....	45
3-7 機械分類データ.....	46
3-8 機械損料データ.....	47
3-9 基準書編・章・項データ.....	51
3-10 施工単価一覧データ.....	53
3-11 供用係数データ.....	54

1. 港湾請負工事積算基準データの内容について

1. 港湾請負工事積算基準データの内容について

1) 基準データの作成方法

「港湾請負工事積算基準データ」（以下「基準データ」）は、財団法人港湾空港建設技術サービスセンター（以下「SCOPE」）が国土交通省「港湾請負工事積算システム」（以下「港湾積算システム」）にも提供しているデータベース部分を、他の積算システム等でも利活用可能なデータに変換し提供するものである。

また、基準データは、「港湾土木請負工事積算基準」の年度改訂や月次改訂の内容を速やかに反映し、提供しており、基準データの仕様は「港湾積算基準データ XMLデータ仕様解説書」（以下「データ解説書」）により公開する。

以下に基準データとデータ解説書およびユーザーによる利用イメージを示す。

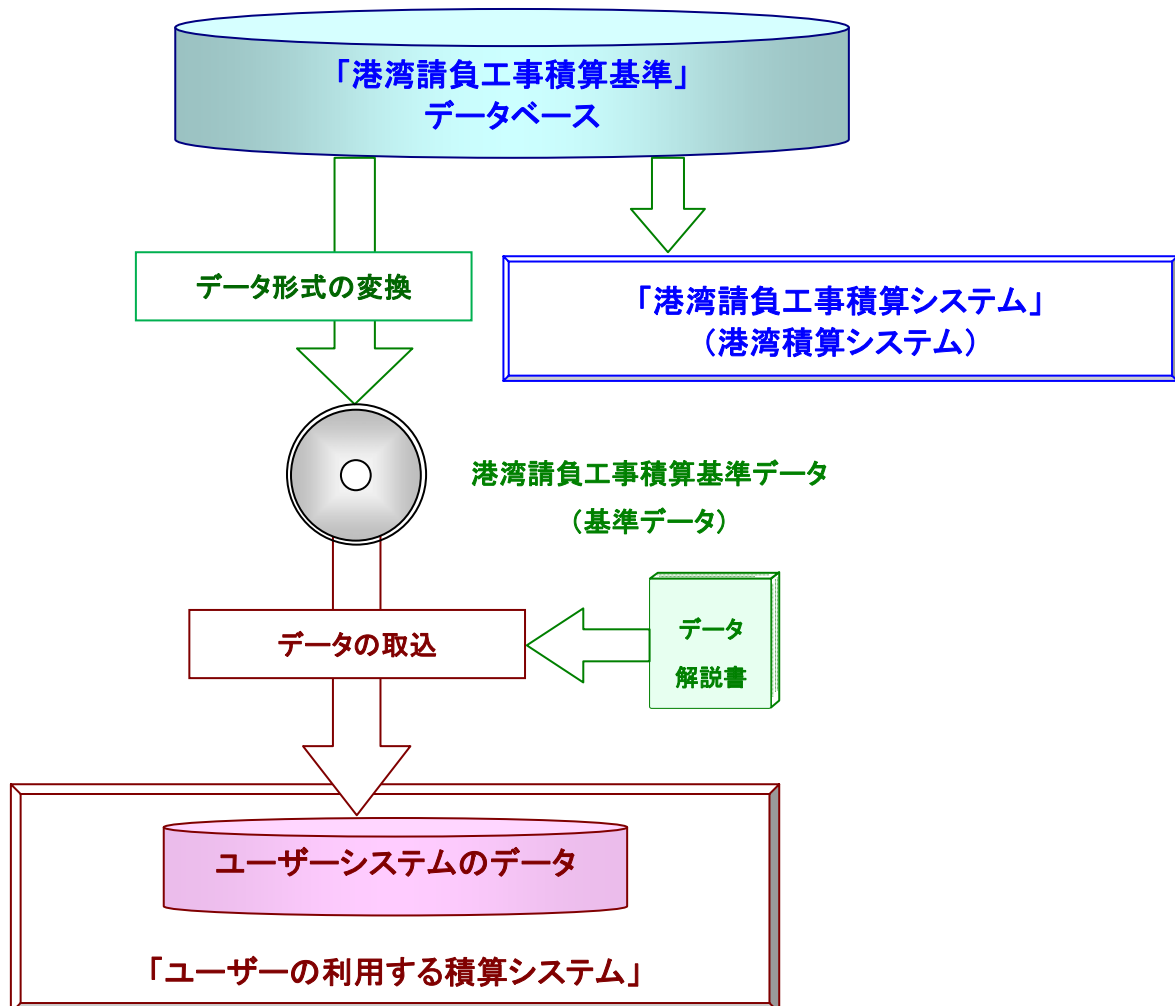


図. 基準データ・データ解説書とユーザーによる利用方法

2) 基準データの対象基準

基準データは、「港湾土木請負工事積算基準」に基づき、下記の基準を対象としている。

表. 基準データの対象基準一覧

直接工事費の施工歩掛(1/4)

節名称		項目
浚渫・土捨工		ポンプ浚渫工
		グラブ浚渫工
		硬土盤浚渫工
		岩盤浚渫工
		バックホウ浚渫工
		排砂管設備工
		土運船運搬工
		揚土土捨工
		海上地盤改良工
	置換工	
	圧密・排水工	
	締固工	
	固化工	
基礎工		基礎盛砂工
		洗掘防止工
		基礎捨石工
		袋詰コンクリート工
本体工	ケーソン式	ケーソン製作工
		ケーソン進水据付工
		中詰工
	ブロック式	本体ブロック製作工
		本体ブロック据付工

直接工事費の施工歩掛(2/4)

節名称		項目
本体工	場所打式	水中コンクリート工
		水中不分離性コンクリート工
		プレパックドコンクリート工
	鋼矢板式	鋼矢板工
		控工
	鋼杭式	鋼杭工
被覆・根固工		被覆石工
		被覆ブロック工(海岸)
		根固ブロック工
上部工		上部コンクリート工
付属工		係船柱工
		防舷材工
		車止・縁金物工
		防食工
消波工		消波ブロック工
		消波ブロック工(海岸)
裏込・裏埋工		裏込工
		裏埋工
埋立工		埋立工

直接工事費の施工歩掛(3/4)

節名称	項目
陸上地盤改良工	圧密・排水工
	締固工
	固化工
土工	掘削工
	盛土工
舗装工	路床工
	コンクリート舗装工
	アスファルト舗装工
維持補修工	維持塗装工
	防食工

直接工事費の施工歩掛(4/4)

節名称	項目
構造物撤去工	取壊し工
	撤去工
仮設工	仮設鋼矢板工
	仮設鋼管杭・鋼管矢板工
	仮設道路工
雑工	現場鋼材溶接工
	現場鋼材切断工
	その他雑工

間接工事費の施工歩掛(1/2)

節名称	項目
回航・えい航費	回航
	えい航
運搬費	建設機械器具等運搬
	仮設材等運搬
準備費	準備費
	準備費(海岸)
事業損失防止施設費	水質汚濁防止膜
	水質汚濁防止枠

間接工事費の施工歩掛(2/2)

節名称	項目
安全費	標識
	安全対策
役務費	借上げ料等
技術管理費	技術管理費
水雷・傷害等保険料	水雷保険料
	傷害保険料
営繕費	営繕費
イメージアップ経費	イメージアップ経費

その他の積算基準(1/1)

節名称	項目
設計等業務	計画・開発・調査等業務
測量・調査等業務	測量業務
	水域環境調査業務
	環境生物調査業務
	磁気探査業務
	潜水探査業務
土質調査業務	土質調査業務

以上に加え、単価表が公開される。

3) 基準データの種類と構成

基準データは、11種類のデータで構成され、各々のデータはコードで関連づけられる。下図にデータの関連図を示す。

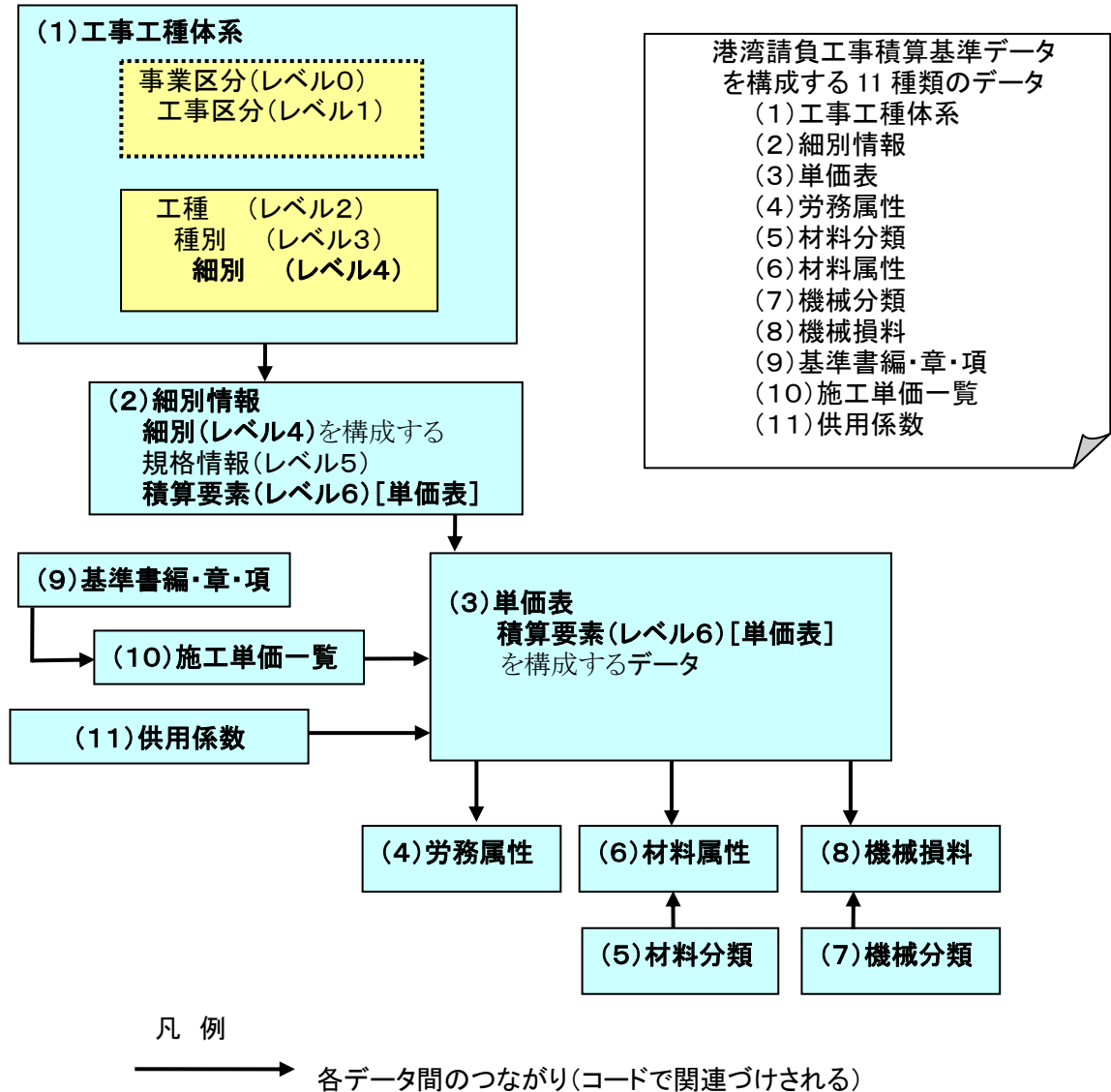


図. 港湾請負工事積算基準データベースの構成

4) 基準データの収録方法

基準データの種類とその収録方法は以下のとおりである。

表. 基準データの種類とその収録方法

No.	基準データ名	データの内容	収録方法	フォルダ名	ファイル名
01	工事工種体系	港湾工事工種体系ツリーを規定したデータ	全体で1ファイル	No.と基準データ名と連結した名称 例) 03 単価表	taikei.xml
02	細別情報	細別を構成する単価表を規定したデータ	細別情報毎に収録		細別コードをファイル名とする
03	単価表	施工単価表を構成するデータ	単価表毎に収録		施工単価コードをファイル名とする
04	労務属性	労務の名称、単位を収録するデータ	全体で1ファイル	04 周辺データに収録	roumu_zokusei.xml
05	材料分類	材料の分類を収録するデータ	全体で1ファイル		zairyu_bunrui.xml
06	材料属性	労務、賃料、市場単価等の名称を収録するデータ	全体で1ファイル		zairyu_zokusei.xml
07	機械分類	機械損料の分類を収録するデータ	全体で1ファイル		kikai_bunrui.xml
08	機械損料	船舶および機械器具等損料を収録するデータ	全体で1ファイル		kikai_sonryo.xml
09	基準書編・章・項	単価表の分類用に編章項番号を収録するデータ	全体で1ファイル		kijyunsho.xml
10	施工単価一覧	単価表と基準書編章項とを連携するための情報を収録するデータ	全体で1ファイル		st_ichiran.xml
11	供用係数	船舶供用係数及び、船員供用係数を収録するデータ	全体で1ファイル		kyoyokeisu.xml

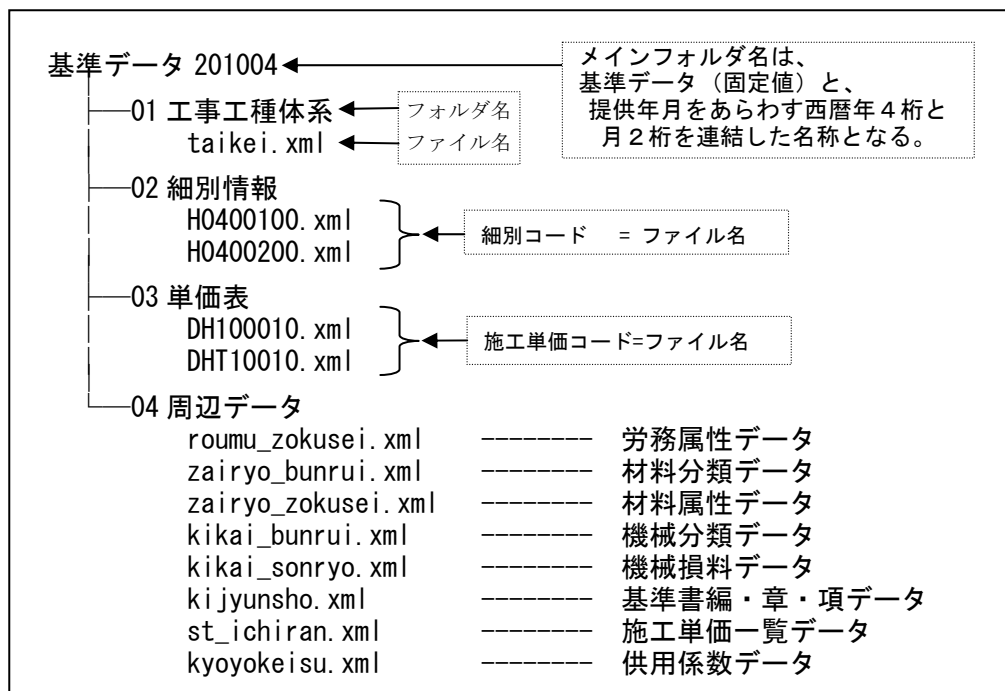


図. 基準データ収録イメージ

5) 基準データの形式

基準データは、下記のデータ形式での提供となる。

(1) データ形式

XML 形式

(2) 文字コード体系

EUC-JP

(3) タグ名称

日本語

(4) データ提供方式

CD-ROM

2. 基準データ仕様の共通事項

2. 基準データ仕様の共通事項

1) コード体系

コード体系は下表のとおりである。

種別	識別	桁数	内容	
工事工種体系	Hxxxxxxxx (HGxxxxxxxx)	10	体系管理番号 体系レベルが4の場合、上位8桁が細別コードとする。 (HG:その他の積算基準)	
細別情報	Hxxxxxxx (HGxxxxxxx)	8	細別コード (HG:その他の積算基準)	
単価表	DHxxxxxx (DHTxxxxxx)	8	DH:代価表 DHT:運転単価表	
機械損料	M30xxxxxxxx	10		
	単価不定 Y30Mxxxxxxxx	10		
単価	労務	Rxxxx R30xx	5	
		単価不定 Y30Rxxxxxxxx	10	
	材料	Z30xxxxxxxx	10	
		単価不定 Y30xxxxxxxx	10	
	市場単価	Q30xxxxxxxx	10	
		単価不定 Y30Qxxxxxxxx	10	
	賃料	L301xxxxxx L302xxxxxx	10	L301:機械賃料 L302:仮設材賃料
		単価不定 Y30Lxxxxxx	10	
	諸雑費	ZS3Hxxxxx ZS7Hxxxxx ZS8Hxxxxx	9	ZS3H:丸め処理 ZS7H:率計算のみ ZS8H:率計算+丸め処理

x:任意の文字列とする

2) 各種データ項目の形式

データ項目表に記述される形態は下表のとおりである。

形態	内容	事例
文字列	名称部や単位、選択肢名称等の文字。	ポンプ浚渫船
数値	歩掛構成の数量等の数値、小数点は実小数点となる。	1000、1.3 等
コード	データ識別のために記述される規則性のある文字列。	DH100010 等
変数	細別情報、単価表データで使用される。変数自体をあらわす記述と、変数にて取得する値をあらわす記述で定義する。	Q01、[Q01]、J01、[J01]、T01、(T01)、(DJ01)、 α 、 β 等

3) 判定式の記述

「判定式」に記述される演算子の内容は以下のとおりである。

演算子	意味
:	左辺と右辺が同じ
!	左辺と右辺が異なる
>	左辺が右辺より大きい
<	左辺が右辺より小さい
\geq	左辺は右辺以上
\leq	左辺は右辺以下
	左辺または右辺
&	左辺かつ右辺
-	右辺～左辺までの範囲
{ }	括り

全て全角で設定とする。

4) 計算項目の記述

「計算式」に記述される演算子の内容は以下のとおりである。

演算子	意味
+	四則演算 加算
-	減算
*	乗算
/	除算
^	べき乗
LOG {X}	対数 自然対数
LOG10 {X}	常用対数
SQRT	平方根

全て全角で設定とする。

「計算式」は単価表データ<変数ブロック><変数設定>の値に設定される。

5) 端数処理の記述

「計算式端数処理」の記述とその規則は以下のとおりである。端数処理部と種別と桁位置を連結し記述される。なお、省略された場合、端数の処理は実施しない。

■端数処理部の指定

小数点以下処理→F 整数桁処理→I 有効桁処理→指定なし

□種別の指定

四捨五入→P、切り上げ→U、切り捨て→Cを記述。

△桁位置の指定 数値にて指定(n)

小数点以下処理の場合、n で指定された小数位までを有効とし以下の桁位置を処理位置とする。

整数桁処理の場合、n で指定された整数位までを有効とし以下の桁位置を処理位置とする。

有効桁処理の場合、n で指定された上位桁位置を有効とし以下の桁位置を処理位置とする。

入力値	端数処理指定 ■□△	処理結果
123. <u>4</u> 56	P4	123.5
123. <u>45</u> 6	FU2	123.46
<u>123</u> .456	I02	120

※アンダーラインは有効桁、傍点は端数処理位置。

6) 変数定義について

項目	内容	設定箇所	備考(記述例)
細別設問番号	細別情報で設問番号を設定する。 [QXX] で記述する。	細別情報	[Q01]
単価表設問番号	単価表で設問番号を設定する。 [JXX] で記述する。	細別情報 単価表	[J01]
単価表入力値変数	単価表設問で入力された値を変数として設定する。 (DJXX) で記述する。	単価表	(DJ01)
単価表変数	単価表変数ブロックの定義で設定する。 (TXX) で記述する。	単価表	(T01)
予約変数	単価表で供用係数データ及び、システム外部データより取得する変数及び、外部に引渡す変数を設定する。 [α] : 船舶供用係数 [β] : 船員供用係数 [β0] : 就業8時間の船員供用係数 [Sval] : 当歩掛の施工量 [SvalNET] : 当歩掛の施工量 (NET) [DSUM] : 業務成果品、事務用品費、施工管理費算出対象額	単価表	[α] [β] [β0] [Sval] [SvalNET] [DSUM]

[]、() は全角で設定とする。

7) 基準データの提供方法

基準データは、年度や月次の基準改訂に対応するため、各データに運用開始年月と有効終了年月の項目を設けている。積算基準の年度改訂提供時には全てのデータを提供し、月次改訂時（基準の正誤表対応等）は改訂分のデータを提供する。

基準データ提供方法

基準データ	初回及び、年度当初の提供データ	月次改訂時の提供データ
工事工種体系	年度内における、全有効データ	変更分の履歴付き全データ
細別情報		改訂、新規、廃止データ
単価表		(差分提供)
労務属性		変更分の履歴付き全データ
材料分類		
材料属性		
機械分類		
機械損料		
基準書編・章・項		
施工単価(ST)一覧		
供用係数		

3. 基準データの内容

3. 基準データの内容

3-1 工事工種体系データ

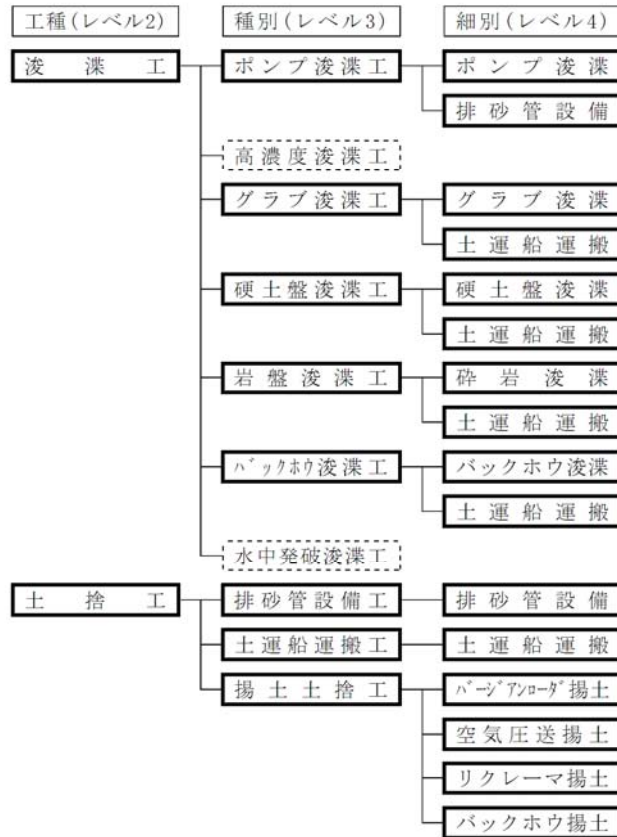
1) データ概要

港湾積算システムと同様の港湾工事工種体系ツリーのデータを「工事工種体系」として公開する。港湾工事工種体系ツリーは、事業区分（レベル0）から細別（レベル4）が定義され、工種（レベル2）以下の構成は、港湾土木請負工事積算基準の「積算ツリー」に準拠する。公開する事業区分と工事区分は下表のとおりである。

表. 事業区分（レベル0）、工事区分（レベル1）の内容

事業区分（レベル0）	工事区分（レベル1）
港湾整備	航路・泊地・船だまり、防波堤・防砂堤・導流堤、防潮堤、護岸・岸壁・物揚場、棧橋・係船杭、臨港道路、共通仮設
海岸整備	堤防・防潮堤・護岸、突堤、離岸堤、樋門・水（閘）門、養浜、共通仮設
設計等業務	計画・開発・調査等業務、予備設計、基本設計、細部設計、実施設計
測量・調査等業務	測量業務、水域環境調査業務、環境生物調査業務
磁気探査業務	磁気探査業務
潜水探査業務	潜水探査、共通仮設
土質調査業務	土質調査(直接調査)、土質調査(間接調査)、解析等調査業務

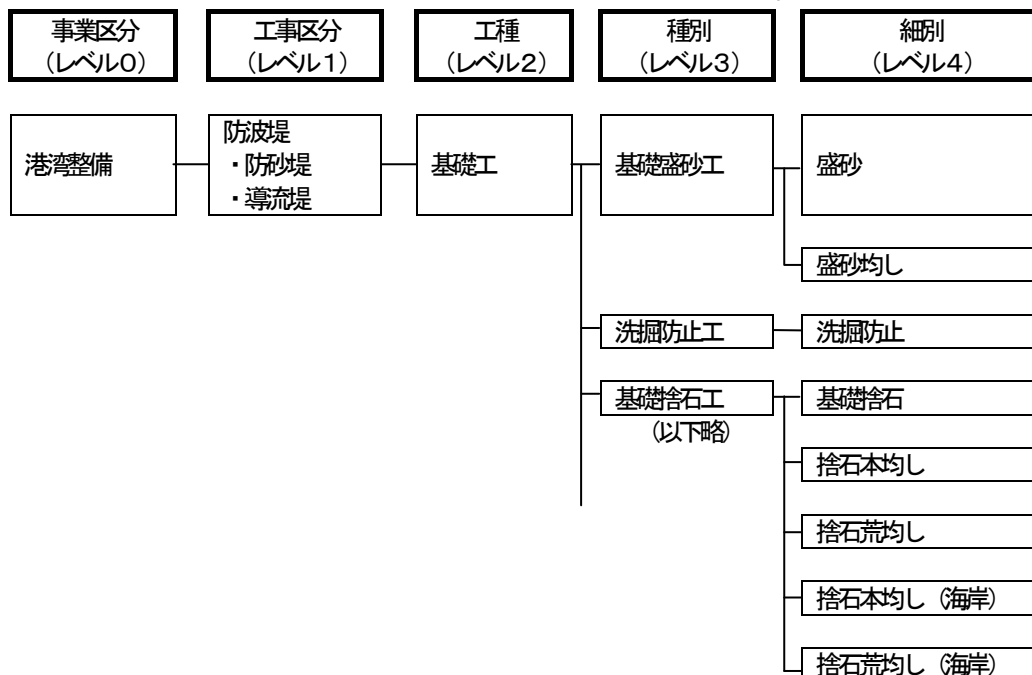
1-2 積算ツリー



注) : 本節で取扱う施工歩掛
 : 施工条件を勘案し別途積算する施工歩掛 (未制定歩掛)

図. 該当する基準書掲載内容の事例 (工事工種体系)

収録するデータの作成イメージは下記のとおりである。



工事工種体系データ内容 (抜粋)

	体系管理番号	～	体系名称	～	体系レベル	～	体系番号				
							0	1	2	3	4
1	H000100001		港湾整備		0		001	000	000	000	000
2	H010200002		防波堤・防砂堤・導流堤		1		001	002	000	000	000
3	H020800007		基礎工		2		001	002	002	000	000
4	H032200028		基礎盛砂工		3		001	002	002	001	000
5	H040410000		盛砂		4		001	002	002	001	001
6	H040420000		盛砂均し		4		001	002	002	001	002
7	H032300029		洗掘防止工		3		001	002	002	002	000
8	H040430000		洗掘防止		4		001	002	002	002	001
9	H032400030		基礎捨石工		3		001	002	002	003	000
10	H040440000		基礎捨石		4		001	002	002	003	001
11	H040450000		捨石本均し		4		001	002	002	003	002
12	H040460000		捨石荒均し		4		001	002	002	003	003
13	H040550000		捨石本均し(海岸)		4		001	002	002	003	004
14	H040560000		捨石荒均し(海岸)		4		001	002	002	003	005

積算ツリーデータは、事業区分（レベル0）から細別（レベル4）までを規定し、ツリーの順はレコードの並び順で制御される他、体系番号（0～4）が整列のキー項目となる。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<工事工種体系データ>			ルート要素	●
2	<工事工種体系>			データ数により繰り返し	●
3	体系管理番号	コード	10	体系管理番号、細別コード（先頭8桁）	●
4	運用開始年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
5	有効終了年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
6	体系名称	文字列	140	工事工種体系の名称	●
7	体系略称	文字列	32	名称の略称	○
8	体系レベル	コード	1	事業区分から細別までの工事工種体系レベル番号	●
9	内訳書単位	文字列	16	設計内訳書用の単位	●
10	総括表単位	文字列	16	工事数量総括表用の単位	●
11	必須入力区分	コード	1	Reserved	—
12	管理費区分	コード	2	間接費等の対象区分	○
13	間接費区分	コード	2	主たる工種の区分	○
14	集計区分	コード	2	金額の集計先項目	○
15	整理番号	文字列	8	細別情報のコントロールフラグ M-999999：細別情報データ無し	○
16	架設工区分	コード	3	架設工フラグを設定	○
17	設備分類区分	コード	3	Reserved	—
18	体系分類区分	コード	3	体系の大分類	○
19	主要工種区分	コード	1	Reserved	—
20	雑工種率	数値	6	Reserved	—
21	体系番号0	コード	3	レベル0の番号	●
22	体系番号1	コード	3	レベル1の番号	●
23	体系番号2	コード	3	レベル2の番号	●
24	体系番号3	コード	3	レベル3の番号	●
25	体系番号4	コード	3	レベル4の番号	●

※内容欄に Reserved と記載のある項目は、将来的に使用を予定する項目である。(以下同じ)

【設定項目】

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : —

<No.3> 体系管理番号

体系レベル4の場合、先頭8桁が細別コードとする。

(例) H040410000
細別コード (H0404100)

<No.4> 体系レベル

体系レベル	レベル名称	備考
0	事業区分	
1	工事区分	
2	工種	
3	種別	
4	細別	

<No.12> 管理費区分

管理費区分	間接費等の対象
0 省略	全ての間接費の対象額とする場合
1	現場管理費、一般管理費等のみ対象とする場合
2	工場管理費、一般管理費等のみ対象とし、間接労務費の対象としない場合
3	機器単体費の対象とする場合
4	据付工労務費の対象とする場合
5	一般管理費等のみ対象とする場合
6	直接材料の一般材料の対象とする場合
7	工場管理費、間接労務費、一般管理費等のみ対象とする場合
8	技術間接費の対象とする場合
9	全ての間接費の対象にしない場合
11	鋼橋桁等（製作＋輸送＋架設等）
12	鋼橋桁等（製作＋輸送）
13	鋼橋桁等（輸送＋架設等）
14	鋼橋桁等（輸送）
15	鋼橋桁等（架設等）
20	共通仮設費、現場管理費のみ対象とする場合
31	設計業務費、設計業務人件費の対象とする場合
32	設計業務費、旅費人件費1の対象とする場合
33	設計業務費、事務用品費の対象とする場合
34	分析試験費とする場合
35	解析・考察費とする場合
36	図工金額とする場合
43	設計業務費、設計業務人件費、事務用品費の対象とする場合
44	設計業務費の対象とする
T	処分費等の対象にする場合
P	プログラム内部で管理費区分を設定する場合

<No.13> 間接費区分

間接費区分	計上項目	備考
50	港湾工事（浚渫）	
51	港湾工事（構造物）	
52	海岸工事（港湾）	
53	防舷材、電気防食単独取り付け工事	
61	調査業務委託	
67	設計等業務	
75	測量・調査等業務	
80	土質調査	
81	磁気探査	
82	潜水探査	
99	工種無し	

<No.14> 集計区分

集計区分	計上項目	備考
01	直接工事費	
02	共通仮設費	
20	直接業務費	
21	直接測量費	
22	直接調査費	
23	間接調査費	
24	解析等調査業務	

<No.15> 整理番号

細別情報コントロールフラグを設定

M-999999：細別情報データとの連動が無いレベル4に設定する。

<No.16> 架設工区分

架設工区分	項 目	備考
100	共通仮設費（積上げ分）	
101	運搬費	
102	準備費	
103	仮設費	
104	事業損失防止施設費	
105	安全費	
106	役務費	
107	技術管理費	
108	営繕費	
109	イメージアップ経費（積上げ分）	
110	回航・えい航費	
111	水雷・傷害等保険料	
300	直接経費（積上げ分）	
302	基地関係費	
303	機械損料	
304	業務成果品費	
305	光熱・電力料	
306	水道	
307	技術管理費（積上げ分）	
308	成果検定費	
309	精度管理費	
310	製図費	
312	電算機使用料	
313	特許使用料	
315	旅費	
319	間接調査費（積上げ分）	
320	施工管理費	
321	解析等調査業務費	
322	分析試験費	
323	解析・考察費	
324	その他（直接経費）	
325	その他（共通仮設費）	
326	事務用品費	
328	借地料	
329	その他（間接経費）	
330	資料解析	

<No.18> 体系分類区分

体系分類区分	体系名称	備考
100	港湾工事	
101	海岸工事	
142	土質調査	
143	磁気探査	
144	潜水探査	
145	設計等業務	
146	測量・調査等業務	

3-2 細別情報データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の細別情報のデータを「細別情報」として公開する。細別（レベル4）を構成する積算要素（レベル6）[単価表]の集合体がデータ定義される。工事工種体系データとは、工事工種体系データに設定される体系管理番号（先頭8桁）で関連づけられる。

2. ケーソン製作工
 ケーソン製作工に含まれる代価表は、下表のとおりである。

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
ケーソン製作工	ケーソン製作用台船	ケーソン製作用台船係留	ケーソン製作用台船係留 1回当り
		ケーソン製作用台船運転	ケーソン製作用台船運転 1式当り
			補助ヤード施設 1式当り
	底面	ルーフィング敷設	ルーフィング敷設 100m ² 当り
	マット	アスファルトマット設置	アスファルトマット設置(工場製作) 枚当り
			アスファルトマット設置(現場製作) 1函当り
		ゴム系マット設置	ゴム系マット(再生)設置 1函当り
	支保	支保組立組外	支保組立組外 100m当り
	足場	枠組足場架払	鋼製枠組足場架払 100m ² 当り
		内足場架払	内足場架払 100m ² 当り
	鉄筋	鉄筋加工組立	鉄筋荷卸 126t当り
			鉄筋加工組立 1,000kg当り
		吊鉄筋組立	吊鉄筋・吊バー 1本当り
	吊鉄筋・吊バー組立 1,000kg当り		
型枠	型枠組立組外	鋼製型枠組立組外 100m ² 当り	
コンクリート	陸上コンクリート打設	コンクリート打設 10m ³ 当り	

図. 該当する基準書掲載内容の事例（細別情報）

基準データのイメージは下記のとおりである。

レベル0～3	細別 (レベル4)	細別 コード	規格 (レベル5)	積算要素 (レベル6)		
				設問名称	[単価表]	
港湾整備	防波堤・防砂堤・導流堤 ├ 本體工 [ケーソン式] ├ ケーソン製作工 ├ ケーソン製作用台船 ├ 底面 ├ マット ├ 支保 ├ 足場 └ 鉄筋	H0405700	鉄筋規格	鉄筋加工組立	鉄筋荷卸	126t 当り
		H0405800			鉄筋加工組立	1,000kg 当り
		H0405900		吊鉄筋組立	吊鉄筋・吊バー	1本 当り
		H0406000			吊鉄筋・吊バー組立	1,000kg 当り
		H0406100				
		H0406200				

工事工種体系データと細別情報データのリンク
体系管理番号の先頭8桁

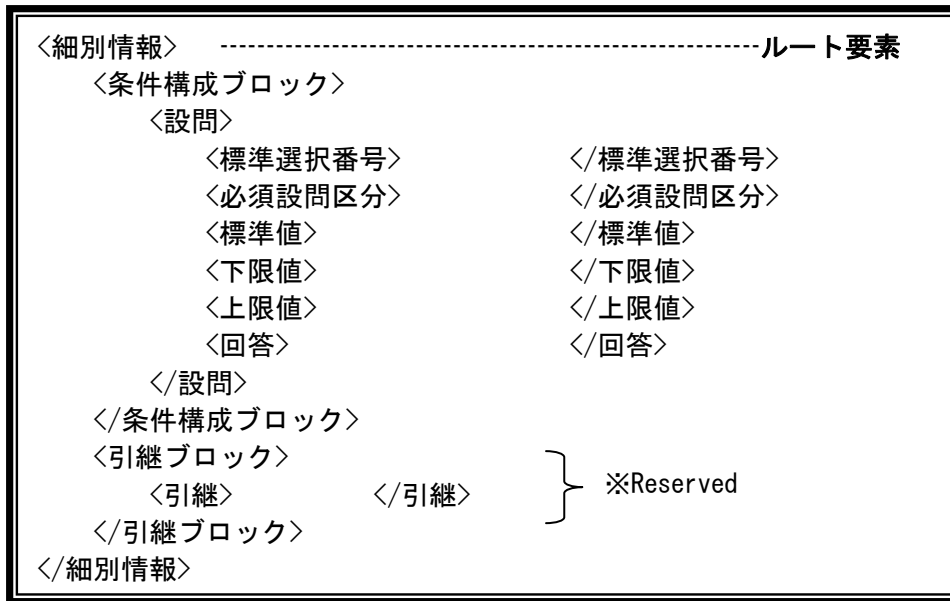
細別情報データの範囲

データは、下表のデータ区分毎に定義される。

表. 細別情報データの区分

データ区分	データ区分の役割
細別情報	細別情報名称等を定義する。データの履歴を管理する。
条件・構成ブロック	設問条件及び、積算要素 (レベル6) [単価表] の構成等を定義する。
引継ブロック	単価表データに引継ぐ条件を定義する。 ※Reserved

細別情報データのタグ構造



2) データ項目

(1) 細別情報

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内容
	属性			
1	<細別情報>			ルート要素
2	細別コード	コード	8	レベル4に割り振られたコード
3	名称	文字列	60	細別情報名称
4	備考	文字列	60	Reserved
5	単位	文字列	16	Reserved
6	算出数量	数値	10	Reserved
7	運用開始年月	数値	6	西暦年(4桁)+月(2桁)
8	有効終了年月	数値	6	西暦年(4桁)+月(2桁)

表. 設定項目一覧

No	項目	設定	備考
1	<細別情報>	●	
2	細別コード	●	
3	名称	●	
4	備考	—	
5	単位	—	
6	算出数量	—	
7	運用開始年月	●	
8	有効終了年月	●	

必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : —

(2) 条件構成ブロック

No	タグ名称		データ	最大 バイト	内 容	
		属性	形式		条件選択	条件入力
1	<条件構成ブロック>					
2	<設問>					
3		設問番号	変数	4	設問変数	
4		名称	文字列	96	設問名称を設定	
5		単位	文字列	16	設問の単位	
6		有効条件	文字列	200	設問を出現させる条件	
7		体系レベル	コード	2	工種体系レベル番号	
8		回答方法	コード	2	当該設問の回答方法 (単・複)	設問に対する回答データ 属性(数・文)
9		<標準選択番号>	文字列 数値	10	初期選択番号	—
10		<必須設問区分>	コード	2	選択を必須とする場合	—
11		<標準値>	文字列 数値	10	—	初期値
12		<下限値>	数値	10	—	最小値
13		<上限値>	数値	10	—	最大値
14		<回答>				
15		番号	コード	4	選択番号	—
16		名称	文字列	96	設問に対して準備された 回答名称を設定	—
17		有効条件	文字列	200	回答を出現させる条件	—
18		単位	文字列	16	回答名称に対応する歩掛 の施工単位	—
19		施工単価コード	コード 文字列	8	回答名称に対応する歩掛 コード	—
20		ヘルプ		256	Reserved	

<No.7> 体系レベル

設定項目	内 容	備考
5	規格（レベル5）に対応する項目を設定する場合	
6	積算要素に対応する項目を設定する場合	
省略	判定条件を設定する場合	

<No.8> 回答方法

回答方法	内容		備考
条件選択の場合	単	単数を選択	
	複	複数を選択	
条件入力の場合	数	数値入力	
	文	文字入力	

<No.10> 必須設問区分

回答方法	内容	備考
必	回答が必須の場合	条件選択の場合のみ 設定
省略	回答を必須としない場合	

<No.19> 施工単価コード

体系レベルが6（積算要素）の場合に設定される。設定値が*（アスタリスク）の場合、「単価表データ」と連動しない積算要素となる。

表. 設定項目一覧

No	項目	条件 選択	条件 入力	備考
1	<条件構成ブロック>	●	●	
2	<設問>	●	●	条件数により繰り返し
3	設問番号	●	●	
4	名称	●	●	
5	単位	○	○	
6	有効条件	○	○	
7	体系レベル	○	○	
8	回答方法	●	●	
9	<標準選択番号>	○	—	
10	<必須設問区分>	○	—	
11	<標準値>	—	○	
12	<下限値>	—	○	
13	<上限値>	—	○	
14	<回答>	●	—	回答数により繰り返し
15	番号	●	—	
16	名称	●	—	
17	有効条件	○	—	
18	単位	○	—	
19	施工単価コード	○	—	
20	ヘルプ	—	—	

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : —

(3) 引継ブロック

No	タグ名称		データ形式	最大バイト	内 容
		属 性			
1	<引継ブロック>				
2	<引継>				
3		下位施工単価コード	コード	8	条件を渡す下位の施工単価コード Reserved
4		引継元条件番号	変数	6	下位施工単価コードに引継ぐ設問番号 Reserved
5		引継条件	数値 文字列	10	下位施工単価コードに引継ぐ回答値 Reserved
6		引渡先条件番号	変数	6	下位単価表の設問番号 Reserved
7		引渡選択番号	数値 文字列	20	下位単価表の設問番号の回答値（選択番号） Reserved
8		引渡数値	数値	10	下位単価表の設問番号の回答値（数値） Reserved

3-3 単価表データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の代価表と単価表のデータを、「単価表」として公開する。細別情報とは、細別情報に設定される施工単価コードで関連づけられる。

2) 代価表

(1) 捨石投入 1,000m³当り

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量		摘 要
			直接投入	瀬取り投入	
捨 石	～ kg/個	m ³	1,000×(1+W/100)		割増しを含む
潜 水 士 船 運 転	D180PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q		就業8H
クレーン付台船	t吊	＃	－	1,000×(1+W/100)/Q×n	運6H/就8H
台 船	鋼 t積	＃	－	1,000×(1+W/100)/Q×n	就業8H
引 船	鋼D PS型	＃	－	1,000×(1+W/100)/Q×n	運2H/就8H
雑 材 料					

- 注) 1. 捨石は、原則として現場投入渡し単価である。
 2. W:材料割増率(%)
 3. Q:潜水士船1日当り投入指示量(扱い数量、m³/日)
 4. n:1日当り必要隻数(隻/日)
 5. 作業船等の数量は、小数3位四捨五入とする。
 6. クレーン付台船、台船、引船は、瀬取り投入の場合に計上する。
 7. クレーン付台船の規格・隻数は、1日当り投入量、吊り荷重と旋回半径等の現場条件により決定する。
 8. 引船、台船の隻数は、1日当り運搬量、運搬距離等の現場条件により決定する。
 9. 引船規格は、「第2章 工事費の積算、1節 直接工事費、付属資料-1 作業能力等、2. 作業船と引船の標準組合せ」による。

4-3-3 施工歩掛

1) 作業能力

(1) 能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量(扱い数量、m³/日)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量(850m³/日)
 E₁ : 水深区分能力補正係数
 E₂ : 施工規模区分能力補正係数

なお、搬入経路や施工現場の水深が浅かったり、平面形状により瀬取り投入が必要な場合で、上式によることが不適当と認められる場合は、施工条件を勘案し潜水士船1日当り投入指示量を補正しなければならない。

(2) 能力係数等

係 数 区 分		補正係数	摘 要
E ₁	水深区分	10m未満	-0.25
		10～20m未満	0.00
		20m以上	0.20
E ₂	施工規模区分	1,000m ³ 未満	-0.05
		1,000～5,000m ³ ＃	0.00
		5,000～10,000m ³ ＃	0.20
		10,000m ³ 以上	0.35

図. 該当する基準書掲載内容の事例(単価表)

基準データのイメージと積算システムでの取込事例は下記のとおりである。

基準データのイメージ

[単価表(ヘッダ情報)]

施工単価コード	名称	単位	数量	補助単位	補助数量	割増率	数量タイプ	運用開始年月	有効終了年月
DH103060	捨石投入	m3当り	1000	m3	1000		NET	200904	999999

[条件ブロック・変数ブロック]

条件・変数番号	名称	基準変数名	単位	有効条件	算式	名称	回答値
J01	地盤の状態				引継	軟弱地盤外	30
						軟弱地盤(捨石層厚3m以上)	40
						軟弱地盤(捨石層厚3m未満)	50
J02	材料割増率		%				
J03	瀬取り投入の有無					無し	
J04	捨石の指定					捨石	
J11	1日当り投入指示量(扱い数量)算定方法					標準	
J12	水深区分				引継	標準外	
						10m未満	-0.25
						10~20m未満	0.00
J13	施工規模区分				引継	20m以上	0.20
						1000m3未満	-0.05
						1000m3~5000m3未満	0.00
						5000m3~10000m3未満	0.20
10000m3以上	0.35						
J14	1日当りの投入指示量(扱い数量)		m3/日				
T01	潜水士船1日当り標準投入指示	q	m3/日	[J11:1]	850		
T02	水深区分能力補正係数	E1		[J11:1]	DJ12		
T03	施工規模区分能力補正係数	E2		[J11:1]	DJ13		
T04	潜水士船1日当り投入指示量	Q	m3/日	[J11:1]	T01 * (1.00+T02+T03)		
T04	潜水士船1日当り投入指示量	Q	m3/日	[J11:2]	DJ14		
T09	捨石の数量		m3		1000 * (1.00+DJ02/100)		
T10	潜水士船の運転日数		日		1000 * (1.00+DJ02/100) / T04		

[構成ブロック]

名称	規格	単位	数量
捨石		m3	T09
潜水士船	D 180PS型 3~5t吊	日	T10
雑材料		%	0.5

選択項目

基準データを積算システムに取込

積算システムでの取込事例

[設定項目]

条件番号	基準変数名	設定項目名	単位	設定内容	補正係数・値
α		船舶供用係数			2.90
β		船員供用係数			1.95
J01		地盤の状態		軟弱地盤外	30
J02		材料割増率	%		30
J03		瀬取り投入の有無		無し	
J04		捨石の指定		捨石	
J11		1日当り投入指示量算定方法		標準	
T02	E1	水深区分		10m未満	-0.25
T03	E2	施工規模区分		1000m3未満	-0.05

供用係数はシステムで設定した値を受け取る。

[計算項目]

変数番号	基準変数名	設定項目名	単位	設定内容	補正係数・値
T04	Q	潜水士船1日当り投入指示量 [Q] = (q)*(1.00+(E1)+(E2)) = (850)*(1.00+(-0.25)+(-0.05))	m3/日	(端数処理)小数1位四捨五入	595
T09		捨石の数量 = 1000*(1.00+(DJ02)/100) = 1000*(1.00+(30)/100)	m3	(端数処理)小数3位四捨五入	1300
T10		潜水士船の運転日数 = 1000*(1.00+(DJ02)/100)/[Q] = 1000*(1.00+(30)/100)/595	日	(端数処理)小数3位四捨五入	2.18

[代価表]: 捨石投入

名称	規格・形状寸法	単位	数量	単価	金額	摘要
捨石		m3	1300.00			
潜水士船	D 180PS型 3~5t吊	日	2.18			
雑材料	全体の%	%	0.50			
合計						

1000m3当り

データは下表のデータ区分毎に定義される。

表. 歩掛データの区分

データ区分	データ区分の役割
単価表 (ヘッダ情報)	歩掛名称・単位・数量タイプ等を定義する。 データの履歴を管理する。
条件ブロック	単価表を生成するための、条件等を定義する。 ※条件無しの場合は省略可
変数ブロック	単価表を生成するための、係数および計算式等を定義する。 ※変数無しの場合は省略可
構成ブロック	単価表を構成する、材料・労務・機械等の構成とその数量等を定義する。
引継ブロック	下位の単価表に引渡す情報を定義する。 ※引継無しの場合は省略可

単価表データのタグ構造

<単価表>	-----	ルート要素
<条件ブロック>		
<条件>		
<標準選択番号>		</標準選択番号>
<標準値>		</標準値>
<下限値>		</下限値>
<上限値>		</上限値>
<選択>		</選択>
</条件>		
</条件ブロック>		
<変数ブロック>		
<変数>		
<J条件>		</J条件>
<回答値>		</回答値>
<変数設定>		</変数設定>
</変数>		
</変数ブロック>		
<構成ブロック>		
<構成行>		
<名称>		</名称>
<規格>		</規格>
<単位>		</単位>
<数量>		</数量>
<供用係数補正>		</供用係数補正>
<単価>		</単価>
<借上の有無>		</借上の有無>
</構成行>		
</構成ブロック>		
<引継ブロック>		
<引継>	</引継>	
</引継ブロック>		
</単価表>		

2) データ項目

(1) 単価表

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容
	属 性			
1	<単価表>			ルート要素
2	施工単価コード	コード	8	当該施工歩掛に割り振られたコード
3	名称	文字列	60	施工単価コードに対する名称
4	備考	文字列	60	施工単価コードに対する規格
5	単位	文字列変数	16	施工単価コードに対する単位
6	数量	数値変数	10	施工単価コードに対する単位数量
7	補助単位	文字列変数	16	
8	補助数量	数値変数	32	
9	割増率	数値変数	9	施工数量に対する割増率
10	数量タイプ	コード	5	施工数量タイプ
11	就業時間	数値変数	9	就業時間
12	運転時間	数値変数	9	運転時間
13	運用開始年月	数値	6	西暦年 (4桁) +月 (2桁)
14	有効終了年月	数値	6	西暦年 (4桁) +月 (2桁)
15	陸上海上区分	文字列	8	陸上/海上の種別

<No.10> 数量タイプ

設定項目	内容	備考
(省略) NET	設計数量	
GROSS	積算数量	

<No.15> 陸上海上区分

設定項目	内容	備考
(省略) 0	陸上 (運転時間固定)	
1	海上 (運転時間固定)	
2	陸上 (運転時間可変)	
3	海上 (運転時間可変)	

表. 設定項目一覧

No	項目	設定	備考
1	<単価表>	●	
2	施工単価コード	●	
3	名称	●	
4	備考	○	
5	単位	●	
6	数量	●	
7	補助単位	○	
8	補助数量	○	
9	割増率	○	
10	数量タイプ	○	
11	就業時間	○	
12	運転時間	○	
13	運用開始年月	●	
14	有効終了年月	●	
15	陸上海上区分	○	

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : -

(2) 条件ブロック

No	タグ名称		データ形式	最大バイト	内 容
		属 性			
1	〈条件ブロック〉				
2	〈条件〉				
3		条件番号	変数	4	設問番号、予約変数
4		名称	文字列	60	設問名称
5		基準変数名	文字列	30	基準上表記される名称
6		単位	文字列	16	設問単位
7		有効条件	文字列	200	
8		レベル	数値	2	Reserved
9		回答方法	コード	2	
10		〈標準選択番号〉	数値	3	設問に対する初期値
11		〈標準値〉	数値 変数	10	回答方法が入力の時の標準値
12		〈下限値〉	数値 コード 変数	10	回答方法が入力の時の下限値
13		〈上限値〉	数値 コード 変数	10	回答方法が入力の時の上限値
14		〈選択〉			
15		番号	数値	4	選択番号
16		名称	文字列	60	選択名称
17		有効条件	文字列	200	
18		標準値	文字列 数値 コード 変数	10	選択名称に対する標準値
19		ヘルプ	文字列	256	Reserved

<No.7>及び<No.17> 有効条件

有効条件の記述内容に「単価表変数(TXX)」を含む。

1. <No.7> タグ名称：条件、属性：有効条件に含まれる事例

```
<条件 条件番号="J09" 名称="層厚 (N値 30 以上の場合)" 単位="無" 有効条件="{(T04) ≥ 30}" 回答方法="単">
  <選択 番号="1" 名称="3m 未満" />
  <選択 番号="2" 名称="3m 以上" />
</条件>
```

2. <No.17> タグ名称：選択、属性：有効条件に含まれる事例

```
<条件 条件番号="J11" 名称="発動発電機の規格" 単位="無" 有効条件="{[J09]: 1}" 回答方法="単">
  <選択 番号="1" 名称="300kVA" 有効条件="{(T06): 1}" />
  <選択 番号="2" 名称="400kVA" 有効条件="{(T06): 2}" />
  <選択 番号="3" 名称="500kVA" 有効条件="{(T06): 3}" />
  <選択 番号="4" 名称="600kVA" 有効条件="{(T06): 4}" />
  <選択 番号="5" 名称="800kVA" 有効条件="{(T06): 5}" />
</条件>
```

<No.9> 回答方法

種別	回答方法	内容	備考
選択	単	条件を単一選択する場合	
	数	数値直接入力	
入力	文	コード直接入力	
	字	文字列直接入力	

表. 設定項目一覧

No	項目	条件選択	条件入力	備考
1	<条件ブロック>	●	●	
2	<条件>	●	●	条件数により繰り返し
3	条件番号	●	●	
4	名称	●	●	
5	基準変数名	○	○	
6	単位	○	○	
7	有効条件	○	○	
8	レベル	—	—	
9	回答方法	●	●	
10	<標準選択番号>	○	—	
11	<標準値>	—	○	
12	<下限値>	—	○	
13	<上限値>	—	○	
14	<選択>	●	—	選択数により繰り返し
15	番号	●	—	
16	名称	●	—	
17	有効条件	○	—	
18	標準値	○	—	
19	ヘルプ	—	—	

必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : —

<No.18> 標準値

選択名称に対する標準値が設定される。標準値は、「単価表入力値変数(DJXX)」として取り扱われる。以下にその設定事例をしめす。

1. 数値が定義される事例

```
<条件 条件番号="J01" 名称="施工区分" 単位="無" 回答方法="単">
  <選択 番号="1" 名称="陸上" 標準値="0.90" />
  <選択 番号="2" 名称="海上" 標準値="1.00" />
</条件>
```

2. コードが定義される事例

```
<条件 条件番号="J06" 名称="ラフテレーンクレーンの規格" 単位="無" 回答方法="単">
  <選択 番号="1" 名称="(油圧伸縮ジブ型) 16t 吊" 標準値="DHT20850" />
  <選択 番号="2" 名称="(油圧伸縮ジブ型) 20t 吊" 標準値="DHT20860" />
  <選択 番号="3" 名称="(油圧伸縮ジブ型) 25t 吊" 標準値="DHT20870" />
  <選択 番号="4" 名称="(油圧伸縮ジブ型) 35t 吊" 標準値="DHT20880" />
  <選択 番号="5" 名称="(油圧伸縮ジブ型) 45t 吊" 標準値="DHT20890" />
  <選択 番号="6" 名称="(油圧伸縮ジブ型) 50t 吊" 標準値="DHT20900" />
</条件>
```

(3) 変数ブロック

No	タグ名称		データ形式	最大バイト	内 容
		属 性			
1	〈変数ブロック〉				
2	〈変数〉				
3		変数番号	変数	4	変数番号、予約変数
4		名称	文字列	60	変数名称
5		基準変数名	文字列	30	基準上表記される名称
6		有効条件	文字列	200	
7		単位	文字列	16	変数の単位
8		定義方法	コード	2	
9		定義方法補助	文字列	2	
10		端数整理	コード	6	値の丸め条件
11	〈J条件〉				
12		Jx	変数	8	設問番号で記述された番号を設定(1次元目)
13		Jy	変数	8	設問番号で記述された番号を設定(2次元目)
14		Jz	変数	8	設問番号で記述された番号を設定(3次元目)
15	〈回答値〉				
16		設定有効条件	文字列	200	回答の有効判定式
17		X	数値	3	Jx のインデックス番号
18		Y	数値	3	Jy のインデックス番号
19		Z	数値	3	Jz のインデックス番号
20		値	文字列 数値 コード 変数	10	変数に設定される値、及びコード
21	〈変数設定〉				
22		値	文字列 数値 コード 変数	200	変数に設定される計算式、文字列

<No.8> 定義方法

種別	設定項目	内容	備考
インデックス	表	インデックステーブル（J条件マトリックス）により、変数値を設定する	
条件テーブル	条	有効条件により、変数値を設定する	
計算式	計	計算式、文字列を変数に設定する	
単価取得	価	指定コードの単価を取得する	
運転時間取得	時	指定機械損料の運転日当り運転時間を取得する	

<No.9> 定義方法補助

機械損料の単価取得する際に、損料欄を指定する。

定義方法で「価」が選択され、指定コードが機械損料の場合に設定する。

設定項目	内 容	備 考
9	損料算定表 9 欄を採用	運転 1 時間(日)当り損料
11	損料算定表 11 欄を採用	供用 1 日当り損料
13	損料算定表 13 欄を採用	運転 1 時間(日)当り換算値損料
15	損料算定表 15 欄を採用	供用 1 日当り換算値損料

表. 設定項目一覧

No	項目	インデックス	条件テーブル	計算式	単価取得	運転時間取得	備考
1	<変数ブロック>	●	●	●	●	●	
2	<変数>	●	●	●	●	●	変数数により繰り返し
3	変数番号	●	●	●	●	●	
4	名称	●	●	●	●	●	
5	基準変数名	○	○	○	○	○	
6	有効条件	○	○	○	○	○	
7	単位	○	○	○	○	○	
8	定義方法	●	●	●	●	●	
9	定義方法補助	—	—	—	○	—	
10	端数整理	○	○	○	—	—	
11	<J条件>	●	—	—	—	—	
12	Jx	●	—	—	—	—	
13	Jy	○	—	—	—	—	
14	Jz	○	—	—	—	—	
15	<回答値>	●	●	—	—	—	回答値数により繰り返し
16	設定有効条件	—	○	—	—	—	
17	X	●	—	—	—	—	
18	Y	○	—	—	—	—	
19	Z	○	—	—	—	—	
20	値	●	●	—	—	—	
21	<変数設定>	—	—	●	●	●	
22	値	—	—	●	●	●	

必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : —

(4) 構成ブロック

No	タグ名称		データ形式	最大バイト	内 容
		属 性			
1	<構成ブロック>				
2	<構成行>				
3		構成コード	コード変数	10	単価表を構成するコード
4		構成引継対応番号	数値	2	同一構成コードが複数あり、下位引渡しを必要とする場合に定義
5		出現条件	文字列	200	設問条件により構成行に出力する出現条件
6		管理費区分	コード	2	構成行の管理費区分（工事工種体系データ No.12 と同じ）
7		諸雑費定義 1	数値	2	諸雑費定義の設定
8		諸雑費定義 2	数値	2	
9		諸雑費定義 3	数値	2	
10		諸雑費参照	数値	2	
11		<名称>	文字列	116	構成行の名称
12		<規格>	文字列	116	構成行の規格
13		<単位>	文字列	16	構成行の単位
14		<数量>	数値変数	10	構成行の数量
15		<供用係数補正>	コード	2	供用係数による補正の有無を設定
16		<借上の有無>	コード	2	船舶借上の有無を設定
17		<単価>			
18		単価補正值	数値変数	15	単価補正值の設定
19		端数整理	コード	6	単価補正に対する丸めを設定
20		判別方法	コード	2	引継 1~9 の使用方法を設定
21		引継 1	数値変数	9	単価設定もしくは損料欄の指定
22		引継 2		9	岩石作業の損料補正区分
23		引継 3		9	Reserved
24		引継 4		9	Reserved
25		引継 5		9	交替作業の損料補正区分
26		引継 6		9	Reserved
27		引継 7		9	Reserved
28		引継 8		9	Reserved
29		引継 9		9	Reserved

<No.7～10> 諸雑費定義、諸雑費参照

諸雑費等の率計算情報は、「諸雑費定義 1～3」、「諸雑費参照」及び「数量」の項目を用いて設定される。なお、諸雑費の率は、数量欄に%で設定される。

「諸雑費参照」の入力値	対象行の判定方法
1	「諸雑費定義 1」の入力値が 1 の場合対象行となる
2	「諸雑費定義 2」の入力値が 2 の場合対象行となる
3	「諸雑費定義 3」の入力値が 3 の場合対象行となる
無し	諸雑費計算無し

【計算事例】

構成コード	名称	数量	単価	金額	諸雑費定義			諸雑費参照
					1	2	3	
Z30000010	材料 1	1	1,000	1,000 ①	1	2	3	
Z30000020	材料 2	1	2,000	2,000 ②		2	3	
Z30000030	材料 3	1	3,000	3,000 ③			3	
ZS7H00010	諸雑費 1	④10%		100 ⑦				1
ZS7H00020	諸雑費 2	⑤20%		600 ⑧				2
ZS7H00030	諸雑費 3	⑥30%		1,800 ⑨				3

諸雑費 1 は、材料 1 の金額の 10%を計上する。

$$\begin{aligned} \text{⑦} &= \text{①} \times \text{④} \\ 100 &= 1,000 \times 10/100 \end{aligned}$$

諸雑費 2 は、材料 1 と材料 2 の合計額の 20%を計上する。

$$\begin{aligned} \text{⑧} &= (\text{①} + \text{②}) \times \text{⑤} \\ 600 &= (1,000 + 2,000) \times 20/100 \end{aligned}$$

諸雑費 3 は、材料 1 と材料 2 と材料 3 の合計額の 30%を計上する。

$$\begin{aligned} \text{⑨} &= (\text{①} + \text{②} + \text{③}) \times \text{⑥} \\ 1,800 &= (1,000 + 2,000 + 3,000) \times 30/100 \end{aligned}$$

【諸雑費コードの種別】

諸雑費コードは、その計算方法により下記の 3 種類に区分される。

諸雑費コード	区分	計算方法
ZS3Hxxxxx	丸め処理	・ 単価表全体金額に対して丸め処理を行う
ZS7Hxxxxx	率計算のみ	・ 対象金額合計に率を乗じる
ZS8Hxxxxx	率計算＋丸め処理	・ 対象金額合計に率を乗じる ・ 率を上限として単価表全体金額に対して丸め処理を行う。

<No.15> 供用係数補正

構成行の数量に供用係数を乗ずる場合に設定

設定項目	内容	備考
(省略) 無	補正無し	
α	供用係数 (α) による補正	
β	船舶供用係数 (β) による補正	

<No.16> 借上の有無

設定項目	内容	備考
(省略) 無	借上を行わない	
有	借上を行う	

<No.20> 判別方法

設定項目	内容	備考
引	機械損料の単価欄を指定する場合 引継 1 に機械損料区分を、引継 2 に岩石作業の補正区分を、引継 5 に交替作業の補正区分を設定する。	
単	直接単価を設定する場合 引継 1 に単価を設定する。	
(省略) 無	引継 1 ~ 9 は使用しない。	

<No.21> 引継 1

No.20 の判別方法で「引」、「単」の場合のみ設定する。

判別方法	設定項目	内容	備考
引	50	損料算定表 9 欄を採用	運転 1 時間(日) 当り損料
	60	損料算定表 11 欄を採用	供用 1 日 当り損料
	0	損料算定表 13 欄を採用	運転 1 時間(日) 当り換算値損料
	20	損料算定表 15 欄を採用	供用 1 日 当り換算値損料
単	単価	単価表に計上する単価を設定	

<No.22> 引継 2

No.20 の判別方法で「引」の場合のみ設定する。

設定項目	内容	備考
0	岩石作業の損料補正を行わない	
2	岩石作業の割増の対象とする	

<No.25> 引継 5

No.20 の判別方法で「引」の場合のみ設定する。

設定項目	内 容	備考
0	交替制作業を適用しない	
1	2 交替	
2	3 交替	

表. 設定項目一覧

No	項 目	判別方法			備 考
		(省略) 無し	引	単	
1	<構成ブロック>	●	●	●	
2	<構成行>	●	●	●	構成行数により繰り返し
3	構成コード	●	●	●	
4	構成引継対応番号	○	—	—	
5	出現条件	○	○	○	
6	管理費区分	○	○	○	
7	諸雑費定義 1	○	○	○	
8	諸雑費定義 2	○	○	○	
9	諸雑費定義 3	○	○	○	
10	諸雑費参照	○	—	—	
11	<名称>	●	●	●	
12	<規格>	○	○	○	
13	<単位>	○	○	○	
14	<数量>	●	●	●	
15	<供用係数補正>	○	○	○	
16	<借上の有無>	○	○	○	
17	<単価>	○	●	●	
18	単価補正值	○	○	○	
19	端数整理	○	○	○	
20	判別方法	○	●	●	
21	引継 1	—	●	●	
22	引継 2	—	○	—	
23	引継 3	—	—	—	
24	引継 4	—	—	—	
25	引継 5	—	○	—	
26	引継 6	—	—	—	
27	引継 7	—	—	—	
28	引継 8	—	—	—	
29	引継 9	—	—	—	

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : —

(5) 引継ブロック

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容
	属 性			
1	<引継ブロック>			
2	<引継>			
3	下位施工単価コード	コード	8	条件を渡す下位の施工単価コード
4	構成引継対応番号	数値	2	同一構成コードが複数あり、下位引渡しを必要とする場合に定義
5	引継元条件番号	変数	6	下位施工単価コードに引継ぐ条件番号
6	引継条件	数値	10	引継元条件番号に対応する選択番号
7	引渡先条件番号	変数	6	下位単価表の条件番号
8	引渡選択番号	数値 変数	20	下位単価表の条件番号の回答値（選択番号）
9	引渡数値	数値 変数	10	下位単価表の条件番号の回答値（数値）

表. 設定項目一覧

No	項 目	設定	備 考
1	<引継ブロック>	●	
2	<引継>	●	引継行数により繰り返し
3	下位施工単価コード	●	
4	構成引継対応番号	○	
5	引継元条件番号	○	
6	引継条件	○	
7	引渡先条件番号	●	
8	引渡選択番号	○	
9	引渡数値	○	

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : -

<No.8, 9> 引渡選択番号と引渡数値における変数の定義

引渡選択番号と引渡数値に、数値の他、変数ブロックで定義される変数値の引き渡しを可能とする。以下に、引渡数値に変数が定義される事例をしめす。

変数ブロックで計算される値(T10)を下位施工単価の条件(J03)の入力数値に引き渡す事例

[DH110020 : グラブ土取]

変数の内容 [T10 : グラブ浚渫船 (普通地盤用) 1日当り運転時間] ← 計算値

引継ブロックの内容は以下のとおり。

下位 施工単価コード	構成引継 対応番号	引継元 条件番号	引継 条件	引渡先 条件番号	引渡 選択番号	引渡 数値
DHT10070	2	-	-	J03	-	T10

下位施工単価 [DHT10070 : グラブ浚渫船 (普通地盤用) (アンカー式) 鋼 D2.5m3]

下位条件の内容 [J03 : 運転時間 単位 : 時間 回答方法 : 数]

3-4 労務属性データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の労務名称、単位のデータを、「労務属性」として公開する。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<労務属性データ>			ルート要素	●
2	<労務属性>			データ数により繰り返し	●
3	労務コード	コード	5	単価コード	●
4	運用開始年月	数値	6	西暦年(4桁)+月(2桁)	●
5	有効終了年月	数値	6	西暦年(4桁)+月(2桁)	●
6	労務名称	文字列	64	名称	●
7	単位	文字列	16	単位を指定	●
8	船員区分	文字列	2	1:船団長・高級船員 2:普通船員	○

【設定項目】

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : -

<No.8> 船員区分

就業時間別船員供用係数(β)対象となる船員について区分を設定する。

設定項目	内 容	備考
1	船団長・高級船員	
2	普通船員	

3-5 材料分類データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の材料検索用分類データを、「材料分類」として公開する。収録する種別は材料単価、市場単価、単価不定コード（機械損料・機械賃料・労務の単価不定を含む）、諸雑費とする。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<材料分類データ>			ルート要素	●
2	<材料分類>			データ数により繰り返し	●
3	運用開始年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
4	有効終了年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
5	業種	コード	2	出典基準の指定（港湾・海岸工事は30固定）	●
6	区分	コード	2	費目の指定（Z3:材料, Q3:市場単価, ZS:雑材料）	●
7	大分類コード	文字列	2		●
8	中分類コード	文字列	3		●
9	小分類コード	文字列	3		●
10	材料コード	コード	10	単価コード	○
11	名称	文字列	64	名称を指定	●
12	規格	文字列	60	規格・形状寸法を指定	○
13	単位	文字列	16	単位を指定	○

【設定項目】
 必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : -

<No.7,8,9> 分類コード

大、中、小の分類番号を設定する。設定方法は下記のとおりとする。

表. 分類コード設定方法

業種	区分	分類コード			材料コード	名 称
		大	中	小		
30	Z3	01	000	000		港湾・海岸工事
30	Z3	01	000	000		大分類名称
30	Z3	01	010	000		中分類名称
30	Z3	01	010	010	Z30xxxxxxx	材料名称

3-6 材料属性データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の材料名称データを、「材料属性」として公開する。収録する種別は材料単価、市場単価、単価不定コード（機械損料・機械賃料・労務の単価不定を含む）、諸雑費とする。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<材料属性データ>			ルート要素	●
2	<材料属性>			データ数により繰り返し	●
3	材料コード	コード	10	単価コード	●
4	運用開始年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
5	有効終了年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
6	製品区分	コード	2	Reserved	—
7	特殊材料区分	コード	2		○
8	単価計算用係数	コード	2		○
9	材料名称	文字列	64	名称を指定	●
10	規格	文字列	60	規格・形状寸法を指定	○
11	単位	文字列	16	単位を指定	●

【設定項目】

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : —

<No.7> 特殊材料区分

区分	内 容	備 考
(省略) 0	通常単価	
1	スクラップ費	
8	損料属性単価	

<No.8> 単価計算用係数

区分	内 容	備 考
(省略) 0	通常単価	
1	1円登録単価	

3-7 機械分類データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の機械損料と機械賃料に対応する検索用分類データを、「機械分類」として公開する。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<機械分類データ>			ルート要素	●
2	<機械分類>			データ数により繰り返し	●
3	運用開始年月	数値	6	西暦年 (4桁) +月 (2桁)	●
4	有効終了年月	数値	6	西暦年 (4桁) +月 (2桁)	●
5	業種	コード	2	出典基準の指定 (港湾・海岸工事は30固定)	●
6	区分	コード	2	費目の指定 (M3固定)	●
7	大分類コード	文字列	2		●
8	中分類コード	文字列	3		●
9	小分類コード	文字列	3		●
10	機械コード	コード	10	機械損料、機械賃料コード	○
11	名称	文字列	80	名称を指定	●
12	規格	文字列	80	規格・形状寸法を指定	○
13	単位	文字列	16	単位を指定	○

【設定項目】
 必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : -

<No.7,8,9> 分類コード

大、中、小の分類番号を設定する。

設定方法は下記のとおりとする。

表. 分類コード設定方法

業種	区分	分類コード			機械コード	名 称
		大	中	小		
30	M3	00	000	000		港湾・海岸工事
30	M3	01	000	000		大分類名称
30	M3	01	010	000		中分類名称
30	M3	01	010	010	M30xxxxxxx	機械名称

3-8 機械損料データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の機械損料と機械賃料のデータを「機械損料」として公開する。機械損料は「船舶および機械器具等の損料算定基準」に準拠する。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容
	属 性			
1	<機械損料データ>			ルート要素
2	<機械損料>			
3	機械コード	コード	10	機械損料コード、機械賃料コード
4	運用開始年月	数値	6	西暦年 (4桁) + 月 (2桁)
5	有効終了年月	数値	6	西暦年 (4桁) + 月 (2桁)
6	機械区分 1	コード	1	
7	機械区分 2	コード	1	
8	分類 1	コード	4	船舶損料の場合、3 ではじまる 4 桁の分類番号が設定される
9	分類 2	コード	3	Reserved
10	分類 3	コード	7	Reserved
11	名称	文字列	80	名称
12	規格	文字列	80	規格・形状寸法
13	単位	文字列	16	単位
14	低騒音低振動割増率	数値	4	Reserved
15	超低騒音超低振動割増率	数値	6	Reserved
16	岩石割増区分	コード	2	
17	豪雪波浪割増区分	コード	2	
18	交替制対象区分	コード	2	
19	機械輸送区分	コード	2	Reserved
20	機械輸送補正	数値	6	機械輸送の割増率 Reserved
21	基礎価格補正	数値	8	基礎価格の割増率 Reserved
22	燃料コード 1	コード	10	
23	燃料コード 2	コード	10	
24	燃料コード 3	コード	10	
25	燃料消費率 1	数値	6	

《続き》

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容
	属 性			
26	燃料消費率 2	数値	6	
27	燃料消費率 3	数値	6	
28	燃料消費量 1	数値	8	
29	燃料消費量 2	数値	8	
30	燃料消費量 3	数値	8	
31	残存率	数値	4	
32	保険料率	数値	6	
33	機関出力	数値	8	
34	機械重量	数値	8	
35	損料算定表 1 欄	数値	12	基礎価格
36	損料算定表 2 欄	数値	4	標準使用年数
37	損料算定表 3 欄	数値	6	年間標準運転時間数
38	損料算定表 4 欄	数値	4	年間標準運転日数
39	損料算定表 5 欄	数値	6	年間標準供用日数
40	損料算定表 6 欄	数値	4	維持修理費率
41	損料算定表 7 欄	数値	4	年間管理費率
42	損料算定表 8 欄	数値	6	運転 1 時間(日)当り損料率 Reserved
43	損料算定表 9 欄	数値	8	運転 1 時間(日)当り損料
44	損料算定表 10 欄	数値	6	供用 1 日当り損料率 Reserved
45	損料算定表 11 欄	数値	8	供用 1 日当り損料
46	損料算定表 12 欄	数値	6	運転 1 時間(日)当り換算値損料率 Reserved
47	損料算定表 13 欄	数値	8	運転 1 時間(日)当り換算値損料
48	損料算定表 14 欄	数値	6	供用 1 日当り換算値損料率 Reserved
49	損料算定表 15 欄	数値	8	供用 1 日当り換算値損料
50	運転日当たり運転時間	数値	6	
51	供用日当たり運転時間	数値	6	
52	現場損料率	数値	8	Reserved
53	現場損料費	数値	8	Reserved
54	年間管理費率	数値	4	Reserved
55	供用日機械管理費	数値	8	Reserved
56	換算損料	数値	8	Reserved

《続き》

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容
	属 性			
57	評価額	数値	8	Reserved
58	軽作業	数値	8	Reserved
59	標準作業	数値	8	Reserved
60	重作業	数値	8	Reserved
61	一現場当り修理費及び損耗費	数値	8	Reserved
62	基礎価格	数値	8	Reserved
63	供用月当り損料	数値	8	Reserved
64	一現場当り損料	数値	8	Reserved

<No.6> 機械区分 1

設定項目	内容	備考
A	一般建設機械	
F	リース機械	

<No.7> 機械区分 2

設定項目	内容	備考
A	運転時間当り機械損料	
B	運転日当り機械損料	
C	供用日当り機械損料	
F	リース料	
T	単価のみ損料	

表. 設定項目一覧

No	項目	設定 (機械区分2)			備考
		A B C	F	T	
1	<機械損料データ>	●	●	●	
2	<機械損料>	●	●	●	データ数により繰り返し
3	機械コード	●	●	●	
4	運用開始年月	●	●	●	
5	有効終了年月	●	●	●	
6	機械区分1	●	●	●	
7	機械区分2	●	●	●	
8	分類1	○	○	○	
11	名称	●	●	●	
12	規格	○	○	○	
13	単位	●	●	●	
16	岩石割増区分	○	—	—	
17	豪雪波浪割増区分	○	—	—	
18	交替制対象区分	○	—	—	
22	燃料コード1	○	—	—	
23	燃料コード2	○	—	—	
24	燃料コード3	○	—	—	
25	燃料消費率1	○	—	—	
26	燃料消費率2	○	—	—	
27	燃料消費率3	○	—	—	
28	燃料消費量1	○	—	—	
29	燃料消費量2	○	—	—	
30	燃料消費量3	○	—	—	
31	残存率	○	—	—	
32	保険料率	○	—	—	
33	機関出力	○	—	—	
34	機械重量	○	—	—	
35	損料算定表1欄	○	—	—	
36	損料算定表2欄	○	—	—	
37	損料算定表3欄	○	—	—	
38	損料算定表4欄	○	—	—	
39	損料算定表5欄	○	—	—	
40	損料算定表6欄	○	—	—	
41	損料算定表7欄	○	—	—	
43	損料算定表9欄	○	—	○	
45	損料算定表11欄	○	—	○	
47	損料算定表13欄	○	—	○	
49	損料算定表15欄	○	—	○	
50	運転日当たり運転時間	○	—	—	
51	供用日当たり運転時間	○	—	—	

【設定項目】

※本表はデータ項目表から Reserved の項目を省いて一覧にしたものである。No はデータ項目表(P.46~P.49)の No と一致する。

必須 : ●
省略可 : ○
設定無 : —

3-9 基準書編・章・項データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の単価表データに対応する検索用分類データを、「基準書編・章・項」として公開する。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<基準書データ>			ルート要素	●
2	<基準書>			データ数により繰り返し	●
3	業種	コード	2	基準書番号	●
4	区分	数値	1	区分番号	●
5	編	数値	2		●
6	章	数値	2		●
7	項	数値	2		●
8	番	数値	2		○
9	運用開始年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
10	有効終了年月	数値	6	西暦年（4桁）+月（2桁）	●
11	業種名称	文字列	80		●
12	編名称	文字列	80	編名称	●
13	章名称	文字列	80	章名称	○
14	項名称	文字列	80	項名称	○
15	番名称	文字列	80	番名称	○

【設定項目】
 必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : -

<No.3> 業種

設定項目	内容	備考
30	港湾・海岸工事を設定	
32	業務委託を設定	

※その他の積算基準で使用する運転単価表は「30」に分類する。

<No.4> 区分

設定される項目が編、章、項、番名称により記述する。

設定項目	内容	備考
0	編名称を設定	
1	章名称を設定	
2	項名称を設定	
3	番名称を設定	

<No.5～8,10～13> 編章項番番号、編章項番名称

編、章、項、番の分類番号及び分類名称を設定する。

設定方法は下記のとおりとする。

表. 編章項番の設定方法

業種	区分	編	章	項	番	業種名称	編名称	章名称	項名称	番名称
30	0	01	00	00	00	港湾・海岸工事	編名称			
30	1	01	01	00	00	港湾・海岸工事	編名称	章名称		
30	2	01	01	01	00	港湾・海岸工事	編名称	章名称	項名称	
30	3	01	01	01	01	港湾・海岸工事	編名称	章名称	項名称	番名称

3-10 施工単価一覧データ

1) データ概要

基準書編・章・項データで設定する検索用分類データの番号と、単価表データの対応情報を「施工単価一覧」として公開する。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<施工単価一覧データ>			ルート要素	●
2	<施工単価一覧>			データ数により繰り返し	●
3	業種	コード	2	基準書番号	●
4	編	数値	2	編番号	●
5	章	数値	2	章番号	●
6	項	数値	2	項番号	●
7	番	数値	2	番番号	○
8	施工単価コード	コード	8	施工単価コード	●
9	運用開始年月	数値	6	西暦年(4桁)+月(2桁)	●
10	有効終了年月	数値	6	西暦年(4桁)+月(2桁)	●
11	施工単価名称	文字列	80	施工単価名称	●
12	備考	文字列	80		○
13	単位	文字列	16		●
15	頁	コード	18		○

【設定項目】
 必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : -

<No.3> 業種

設定項目	内容	備考
30	港湾・海岸工事を設定	
32	業務委託を設定	

※その他の積算基準で使用する運転単価表は「30」に分類する。

3-1-1 供用係数データ

1) データ概要

港湾積算システムと同様の供用係数データを公開する。

2) データ項目

No	タグ名称	データ形式	最大バイト	内 容	設定項目
	属 性				
1	<供用係数データ>			ルート要素	●
2	<供用係数>			データ数により繰り返し	●
3	係数ランク	コード	2	係数ランク (1~9)	●
4	運用開始年月	数値	6	西暦年 (4桁) +月 (2桁)	●
5	有効終了年月	数値	6	西暦年 (4桁) +月 (2桁)	●
6	船舶供用係数	数値	4	α 値	●
7	就業 8 時間船員供用係数	数値	4	β 値 船団長高級船員と普通船員の数値は同一 ($\beta 0$)	●
8	就業 9 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
9	就業 9 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●
10	就業 10 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
11	就業 10 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●
12	就業 11 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
13	就業 11 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●
14	就業 16 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
15	就業 16 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●
16	就業 18 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
17	就業 18 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●
18	就業 20 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
19	就業 20 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●
20	就業 22 時間船団長高級船員供用係数	数値	4	β 値	●
21	就業 22 時間普通船員供用係数	数値	4	β 値	●

【設定項目】

必須 : ●
 省略可 : ○
 設定無 : -

【問い合わせ先】

財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター

担当部署 : システム部

所在地 : 〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番1号
尚友会館3階

電話番号 : 03-3503-2801

F A X : 03-5512-7515

※本資料及び提供する基準データの仕様および内容については、予告なく変更する場合があります。

また、本資料の内容を財団法人港湾空港建設技術サービスセンターの許可なくコピー、転写すること、もしくはこれに準ずる行為を禁止します。